

ノルウェー



Vol.1 休日は家族みんなでお散歩へ

今回はノルウェーに留学されていた田芹さんにお話を伺いました。

ノルウェーはどんな国でしたか？特徴を教えてください。

なんと言っても豊かな自然に囲まれていることが一番の特徴ですね。

日本と同じように南北に長い国で、西部のフィヨルド地帯、美しい海岸線が連なる南部、首都オスロ、北極圏にあってオーロラが見られる北部とそれぞれ特長があります。



田芹さんはどちらに住んでいましたか？

首都のオスロです。
留学していたオスロ大学の近くの寮に滞在していました。

暮らしてみてどんなところがいいなと思いましたか？

時間が穏やかに過ぎるところですね。
特に電車の路線や本数が少ないところやビルが少ないところなど、“田舎らしさ”のある街が多かったのがのんびりできてよかったです。



日本と比べて『これは違うな』と思うこと、驚いたことはありましたか？

道行く人が少ないしにも関わらず道幅が広かったりと、どこでも“余裕”が存在することですね。

店舗のつくりや店員さんの対応の仕方が親切で、商売だけでなく人付き合いを大切にしているように感じました。

とにかく初対面の人にも壁を作らず、積極的に仲良くなろうとする姿勢は日本人も見習うべきだなと思います。

その他に日本と違うところは？

ノルウェーはヨーロッパで一番女性の就業率が高いらしいんです。
私の通っていた大学の教授も男女比率は半々くらいだったし、バスの運転手や車掌さんなど男性職と言われる職業に女性が就いていることが多かったように感じましたね。

あと“休みはきちんと休む”というところですね。日本のように、労働時間が多すぎることは絶対ないです。17時くらいまでのお店が閉店していたし、土日は完全に休みというところも少なくなかったですよ。

しっかり休めるところはとてもうらやましい生活習慣なんですけど、土日に街で遊ぶことができないのがちょっと…

基本的にスケジュールをきちんと組んで動くことが大事だなと思いました。



それでは休日はどのように過ごしているのですか？

家でのお散歩が基本ですね。

または、家族そろって公園に散歩、なんていう健康的な過ごし方が多かったと思います。
友人同士で家に遊びに行ったりということもありましたよ。

週末は街全体がお休みになってしまうノルウェー。

私たち日本人から見ると、少々不自由そうな印象を受けてしまいますが、こういった生活習慣だからこそ家族や友人と過ごす時間をたっぷり確保できているようです。

今回は、ノルウェーの食事やイベントについてお届けします。

ノルウェー



Vol.2 バースデーケーキは自分で準備！！

前回に引き続き、田芹さんにノルウェーのイベントや食事についてお話を伺いました。

ノルウェーの食文化にはどんな特徴がありますか？

長く厳しい冬を乗り切るために、昔から“保存の効く食料”が欠かせない存在だったようです。

肉や魚も干したり、塩漬けまたは燻製にしたりして保存食に変化させていましたね。海に面した地方で水揚げされる新鮮な魚も、生で食べることは滅多になく、保存食にする他、煮る・焼くといった調理方法で食されていました。

日本では“ノルウェーと言えばサーモン”と思われがちですが、実際街で見かけることが多いのは干しダラでした。



また、印象的だったのは、海老の塩茹です。港街に行くと袋詰された海老の塩茹でが漁船で売られているんです。これはノルウェーならではの風景じゃないかなと思います。

その他に何か変わった料理はありませんでしたか？

私は実際食べていないのですが、北部の地方ではトナカイ肉が食べられていると聞いたことがあります。

日本ではトナカイといえばサンタクロースを乗せたソリを引いているイメージが強いので、ちょっと想像しづらいかもしれませんね。

では、イベントの際に食べられている特別な料理はありましたか？

お祝いの時に食べる「クランセカーケ」という伝統的なお菓子がありました。

「クランセカーケ」はアーモンドの粉で作ったリング状のケーキを大きい順から18段重ねた円錐状のケーキです。土台は一緒ですが、イベントによって飾り付けを色々楽しんでいるようです。

ノルウェーで1番盛大に行われる行事は憲法記念日のパレードで、この日は民族衣装に身を包み、国旗を持った人たちが国中が賑わうんですが、やはりこの日も「クランセカーケ」が食卓に並びます。憲法記念日バージョンのクランセカーケにはノルウェーの国旗が散りばめられているんですよ。

その他に特徴的なイベントはありましたか？

誕生日の祝い方に驚きましたね。

ノルウェーでは誕生日を迎える人本人がパーティーを企画・準備しなくてはならないんです。もちろんケーキも自分で……

日本では“祝ってもらおう”という感覚が強いので、ちょっと寂しいなあと感じてしまうかもしれませんね。

私もどうしてこのような祝い方をするのか本当の理由はわからないんですが、日頃から自分を大切にしてくれている家族や友人に対する“お礼”の意味を持っているんじゃないかなと思います。



国旗を持ってパレードに参加したり、ケーキを国旗で飾ったりとノルウェー国民の愛国心の強さが見られました。

また、一見相反するノルウェーと日本の誕生日ですが、「自分で企画する誕生日」も、「祝ってもらおう誕生日」も、根底には“家族や友人あっての自分”という共通した考え方が存在している気がします。

ノルウェーのお話は今回で終わり。次回からはフィリピンについてご紹介します。